しょう4 こくご「書写・故事成語・物語を作る」 その3

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿　　がつ　にち　てん ＿＿＿＿ / 20

1　毛筆で書くとき、半紙が動かないように上にのせておさえる道具は?

ア すずり　イ 下じき　ウ 文ちん　エ 筆　こたえ ＿＿＿＿

2　お話の中に出てくる人や動物を何という?

ア 読者　イ 登場人物　ウ 題名　エ 作者　こたえ ＿＿＿＿

3　毛筆の練習で、字を書くために使ううすい紙は?

ア 新聞紙　イ 画用紙　ウ 半紙　エ 色紙　こたえ ＿＿＿＿

4　「かきくえば かねが鳴るなり ほうりゅうじ」(正岡子規)の季節は?

ア 夏　イ 冬　ウ 春　エ 秋　こたえ ＿＿＿＿

5　俳句の季語で、春を表すものは?

ア ほたる　イ こがらし　ウ すすき　エ つくし　こたえ ＿＿＿＿

6　「けんたは、ころんだ一年生を見つけると、すぐにかけよって手をかした。」けんたはどんな人物?

ア 親切でやさしい　イ なまけものでずるい　ウ おくびょうで気が弱い

エ らんぼうでこわい　こたえ ＿＿＿＿

7　「さみだれを あつめて早し 最上川」(松尾芭蕉)の季語は?

ア あつめて　イ 早し　ウ 最上川　エ さみだれ　こたえ ＿＿＿＿

8　短歌のはじめの五・七・五の部分を何という?

ア 上の句　イ 切れ字　ウ 下の句　エ 季語　こたえ ＿＿＿＿

9　詩を作るとき、言葉をえらぶくふうとしてよいものは?

ア なるべくむずかしい言葉をならべる　イ 感じたことにぴったり合う言葉をさがす

ウ 説明の文を長く書く　エ 同じ言葉をどの行にも入れる　こたえ ＿＿＿＿

10 「みんなが はしを わたろうと した とき、みかは『まって。板が ぐらぐら して いる よ』と 言い、一まいずつ たしかめた。」みかは どんな 人物?

ア いつも あわてて 先走る　イ よく 考えて 用心深い　ウ 人の ことを 気に しない

エ こわくて 何も できない　こたえ ＿＿＿

11 へびの 絵を かく きそいで、ない はずの あしまで かいて 負けた 人の 話から 生まれた 言葉は?

ア 蛇足　イ 矛盾　ウ 漁夫の利　エ 五十歩百歩　こたえ ＿＿＿

12 半紙と つくえの 間に しいて、すみが しみ出ない ように する ものは?

ア 文ちん　イ すずり　ウ 下じき　エ ふでまき　こたえ ＿＿＿

13 毛筆で 書く ときの しせいで よい ものは?

ア 体を ななめに して 書く　イ 紙に 顔を 近づけて 書く　ウ ひじを つくえに つけて 書く

エ せすじを のばし、紙を 体の 正面に おく　こたえ ＿＿＿

14 「漁夫の利」の 使い方が 正しい 文は?

ア 一人で こつこつ 練習して 漁夫の利を えた。　イ みんなで 協力して 漁夫の利を えた。

ウ りょうしが 海で 魚を とるのを 漁夫の利と いう。

エ 兄と 姉が おかしを とり合う 間に、妹が 食べて 漁夫の利を えた。　こたえ ＿＿＿

15 「五十歩百歩」の 使い方が 正しい 文は?

ア 五十歩百歩 歩いて、やっと 駅に ついた。

イ 弟も ぼくも ねぼうしたので、どちらも 五十歩百歩だ。

ウ 百歩 歩く ことを 五十歩百歩と いう。　エ かれの 点数は ぼくより 五十歩百歩 上だ。

こたえ ＿＿＿

16 詩を 作る とき、「たとえ」を 使うと どんな よさが ある?

ア 音の 数が ちょうど 17に なる　イ 読む 人が 意味を 考えなく なる

ウ 詩が かならず 短く なる　エ ようすが 目に うかぶ ように つたわる　こたえ ＿＿＿

17 「雪とけて 村いっぱいの 子どもかな」(小林一茶)の 季節は?

ア 秋　**イ** 冬　**ウ** 春　**エ** 夏　こたえ＿＿＿

18 天が 落ちて こないかと、毎日 心配して いた 人の 話から 生まれた 言葉は?

ア 推敲　**イ** 漁夫の利　**ウ** 杞憂　**エ** 矛盾　こたえ＿＿＿

19 自分で 作った 詩を みんなの 前で 読む とき、よい ことは?

ア 行の 切れめを 気に せず 読む　**イ** 小さな 声で ぼそぼそ つぶやく

ウ ひびきを 大切に、ゆっくり 読む　**エ** できるだけ 早口で 一気に 読む　こたえ＿＿＿

20 物語を 作る 前に、登場人物に ついて 決めて おくと よい ことは?

ア 物語の ページの 色　**イ** 物語を 読む 人の 数　**ウ** 物語を 書きおわる 時こく

エ 名前や せいかく、年れい　こたえ＿＿＿

こたえと かいせつ　しょう4 こくご「書写・故事成語・物語を 作る」 その3

1　**ウ 文ちん**

紙の はしに のせる 重い ぼう。

2　**イ 登場人物**

お話の ぶたいに 出て くる。

3　**ウ 半紙**

書写の 時間に 使う 白い 紙。

4　**エ 秋**

かきが 実る きせつ。

5　**エ つくし**

野原に 顔を 出す 草。

6　**ア 親切で やさしい**

こまって いる 人に 何を した?

7　**エ さみだれ**

つゆの ころに ふる 長い 雨。

8　**ア 上の句**

のこりの 七・七は「下の句」。

9　**イ 感じた ことに ぴったり 合う 言葉を さがす**

自分の 気持ちに 近い 言葉。

10　**イ よく 考えて 用心深い**

わたる 前に 何を した?

11　**ア 蛇足**

よけいな ものを つけ足した。

12　**ウ 下じき**

フェルトで できた やわらかい もの。

13　**エ せすじを のばし、紙を 体の 正面に おく**

うでが 動かしやすい しせい。

14 **エ 兄と 姉が おかしを とり合う 間に、妹が 食べて 漁夫の利を えた。**

あらそいの すきに、べつの 人が とくを する。

15 **イ 弟も ぼくも ねぼうしたので、どちらも 五十歩百歩だ。**

どちらも 大して かわらない とき。

16 **エ ようすが 目に うかぶ ように つたわる**

「〜のような」で にた ものに たとえる。

17 **ウ 春**

雪が とけるのは いつ?

18 **ウ 杞憂**

その 心配は いらなかった。

19 **ウ ひびきを 大切に、ゆっくり 読む**

聞く 人に 詩の 気持ちを とどける。

20 **エ 名前や せいかく、年れい**

どんな 人物かを 決める。